

全日本港湾労働組合 関東地方鹿島港支部  
青年部 後藤 武俊

## 第 23 回青年対策交流集会に参加して

2月24日(金)～26日(日)

豊橋シーパレス

1日目は、全港湾中央執行委員長の鈴木誠一委員長が『全港湾の歴史』というテーマで昔の港の歴史や戦後の港湾荷役の話などを分かりやすくお話してくれました。

話をしてくださって知ったことは、戦後まもない港は無秩序な環境下で保障も無く、仕事の状況次第で明日の食事があるかないかという過酷な生活をしていたということを知り、そういう歴史があって全港湾という労働組合ができたということを知りました。

2日目は、

全国港湾中央執行委員長の真島勝重委員長が、新潟県で起こった原子力発電所の建設阻止を勝ち取った時のお話をしてくれました。

話を聞いて思ったことは、ネット環境もない時代でお家を一軒、一軒まわって大勢の人を説得し団結していき、最後は原子力発電所の建設反対までもっていった事に素直にすごいなと思いました。この事からも諦めず最後まで戦うという大切さも知りました。

次に班ごとに分かれ「福島キャラバンについて」「青年部の活動について」「どのような職場環境が良いか？」というテーマで話し合いをしました。

まず、キャラバンについて話し合いをしました。

話し合っただけで感じたことは、今年の3月11日で大震災から13年もたち、あの悲惨な震災を知らない人たちが増えていき福島第一原子力発電事故の記憶が風化していつてしまうことに危機感を感じました。

忘れないために、これから生まれてくる子供たちのためにも原発の恐ろしさを伝えていくには福島キャラバンは必要だと思いました。

次に青年部の活動について話し合いをしました。

班で組合離れの問題について、どのようにしたら解消されていくのかを考えました。

班で出した結論は、活動を経験し、そこで出会った仲間と美味しいご飯を食べ、お酒を飲む！  
そういうキッカケがあれば良いなと思いました。

その交流の中で何か一つでも感じたことがあれば自分の支部に伝えていき、次の世代に繋

げられればもっと良いよねということを話しました。

3つ目に「どのような職場環境にしていきたいか?」について話し合いをしました。

話し合いの中で、変則勤務体制について見直してもらいたいという意見が出ました。

具体的には 15:00~23:00 まで勤務し、翌日の 08:00 から出勤するといった勤務体制の内容でした。

この体制だと帰宅後、プライベートの時間は確保できず、また退職する人も少なくありません。という事でした。

この話を聞いて感じたことは、自分が生きていく上で、個人の力だけではどうしようもないということを思いました。改めて労働組合の必要性や大切さを知りました。

3日目は班に分かれて話し合った議題について発表会をしました。その後は年間スローガンを発表し、中央本部のみなさんにお話をしてもらい、みんなで団結ガンバローで交流会を締めました。

青年対策交流集会上に初めて参加させてもらって感じたことは、

全国のいろいろな地域でさまざまな問題があって自分の知らない世界を知れたことが良かったです。

交流の中で自分の支部でも生かせるようなこともあったので自分の後輩たちに繋げられるようにこれからも活動などに参加していき、全港湾の仲間と交流をしながら学んでいきたいと思いました。